調査報告

# 加古川水系と由良川水系の川下、川裾、川濯信仰の伝承

舟山直治・村上孝一

Key Words　大祓（Purification）、水無月神社（“Minaduki”shrine）、分水界（Watersheds）、祭祀（Ritual）、分布（Distribution）

## 1　はじめに

これまで筆者は、科学研究費助成事業「西廻り航路を介して北海道に伝播した大祓の祭祀と伝承をめぐる諸問題の民俗学的研究」（課題番号：25370961）として、江戸時代の西廻り航路などを介した地域間交流を背景に、伝承した信仰形態の変遷を明らかにするため、5ヶ年計画で調査を進めている。

調査初年の2013年度には、積丹郡積丹町余別の川下祭と、兵庫県における川下、川裾、川濯の祭祀状況を調査した（舟山 2014）。次年度には、大祓にかかわりの深い北海道の祭神や神社を取りあげて、これまでの祭祀の実態と神像の形態を整理した。なかでも瀬織津姫命と速開津姫命など祓戸の神の祭祀は、北海道では、旧暦6月晦日頃の年中行事から分離して、地域の女性達により、川下、川裾、川濯神の祭祀として、冬期に行われる形態が、特徴的な事例であることを示した（舟山 2015）。

本年度は、兵庫県の分布調査の補足と、日本海交易ルートのひとつとして北海道とつながりのある京都府北部の祭祀を調査した。この調査の目的は、大祓、特に名越大祓に関連する川下、川裾、川濯神の伝承ルートを解明するための基礎資料とすることにある。

したがって、本論は、川下、川裾、川濯神の伝承ルートを探る上で、まず先行研究を再検討して課題を整理した上で、祭祀の分布とその特徴を検証する。あわせて、分水界を境界とした河川として加古川水系と由良川水系に着目し、それぞれの祭祀形態を比較するとともに、京都府北部における祭祀の特徴を明らかにする。

本論では、兵庫県を流れる河川およびその支流について、水系ごとの祭祀状況を図1に示す。図1には、祭祀にかかわる兵庫県、鳥取県、岡山県、京都府北西部の河川を示し、各河川の名称に即して略号を付した。日本海側は、西から千代川（se）、岸田川（ki）、矢田川（ya）、竹野川（ht）、円山川（ma）、久美谷川（ku）、川上谷川（ka）、福田川（fu）、竹野川（kt）、宇川（u）、犀川（sa）、波見川（ha）、野田川（no）、由良川（y）、高野川（ta）の13水系で、鳥取県、兵庫県、京都府の2県1府を流れる。瀬戸内側は、西から吉野川（yo）、千種川（ti）、揖保川（ib）、市川（it）、加古川（k）、明石川（ak）の6水系で、岡山県と兵庫県の2県を流れる。河川の略号には、神社や祭祀の所在地を示す番号を、河口から上流部に向かって付した。

なお、京都府の調査に際して、川下、川裾、川濯の祭神として係わりの深い祓戸の神、瀬織津姫命を祭祀する神社、あるいは水無月神社や水無月祭を行う神社を、共著者と手分けして調査地を選定したことを付記しておく。

## 2　川下、川裾、川濯神のこれまでの研究

川下、川裾、川濯神について、民俗学研究所編（1956）では、兵庫県には千種川と揖保川の上流域にあたる宍粟郡、加古川水系が流れる美囊郡と多可郡にみられるとしている。兵庫県以外には、滋賀県高島郡の知内川、福井県南条郡の日野川上流域のほか、金沢市や仙台の祭祀を指摘している。

川裾の祭祀について池田（1959）は、仙台と金沢市の事例に触れながらも、その分布域は「山陰から北陸にかけての極く小範囲に過ぎない」としている。具体的には、兵庫県では宍粟郡に5件（図1–ti1～ti2、ib2～ib4）、円山川水系の養父郡や市川水系の広峰にもあるとしている。そして、鳥取県では千代川水系が流れる八頭郡に1件（図1–se1）、岡山県でも旭川水系の上流域にあたる真庭郡の木山神社についても触れている。

兵庫県以外の祭祀状況は、宮尾編（1968）によれば、川裾祭は、滋賀県高島郡、福井県武生市（現在越前市）、京都府与謝郡の野田川流域（図1–no3周辺）、由良川流域の福知山市（図1–y3～y5周辺）にもあるとしている。

篠田（1979）は、兵庫県の加古川水系における川裾祭の1953年の調査と、兵庫県から北陸地方までの祭祀を改めて整理して川下祭の所在を確認している。これによると、瀬戸内川側の加古川水系では、加東郡に1件（図1–k3）、多可郡に5件（西脇市を含め、図1–k5～6、

舟山直治：北海道博物館　学芸部長
村上孝一：北海道博物館　研究部　博物館研究グループ

k8、k10、k12)、氷上郡（現在丹波市）に7件（図1-k18、k21～k23、k26、k28～29）に、すでに祭が途絶えていた5件（図1-k15、k16、k19、k20、k24）を含めて計18カ所を取りあげている。兵庫県の日本海側には、岸田川流域の美方郡に1件（図1-ki1)、同じく円山川水系流域の出石郡に1件（図1-ma5）と養父郡に1件（図1-ma12）の計3カ所の祭祀をあげている。このほか福井県には、日野川が流れる武生市（現在越前市）に1件、九頭竜川水系の滝波川が流れる勝山市に1件、同水系の真名川が流れる大野市に1件、同じく竹田川が流れる坂井郡（現在坂井市丸岡）に1件の4カ所の川下祭を示している。滋賀県では、知内川が流れる高島郡（知内）に1件、余呉川が流れる伊香郡（中之郷）に1件と、琵琶湖に注ぐ河川流域の祭祀をあげている。さらに、調査の記憶や聞き取りメモから、兵庫県の広峰、丹波、関宮、京都府の舞鶴、福井県の松岡のほか、岩手県や北海道の分布にも言及している。

兵庫県の祭祀状況について、神戸新聞社学芸部編（1971）によると、瀬戸内海側は、千種川水系上流域の宍粟郡に1例（図1-ti1)、揖保川水系上流域の宍粟郡に4件（図1-ib1～4)、市川水系上流域の朝来郡に1件（図1-it1)、加古川水系では中流域の加東郡（現在の加東市）から上流域の氷上郡（現在の丹波市）にかけて19件（図1-k3～4、k6～8、k10、k12～14、k17～19、k21～23、k25、k27～29）と、以上25カ所の祭祀がとりあげられている。日本海側は、岸田川流域に2件（図1-ki1～2)、矢田川流域に3件（図1-ya1～3)、竹野川流域に3件（図1-ht1～3)、円山川水系流域に13件（図1-ma1～5、ma7、ma10～16)、由良川水系上流域にあたる氷上郡（現在の丹波市）に3件（図1-y8～10）の計24カ所の祭祀が示されている。

西岡（1977）は、これまで断片的にとらえられてきた川下、川裾、川濯の神社や祭祀状況についてまとめ、滋賀県内の祭祀も加えて一覧表に整理している。これによると、兵庫県には61カ所、岡山県には2カ所、京都府には2カ所、滋賀県には7カ所、福井県には4カ所、石川県に2カ所と、少なくとも計78カ所にあったとしている。これらの分布域は、兵庫県中北部（播磨北部、但馬、丹波）から北陸地方かけて多いと指摘している。これを河川ごとにみると、瀬戸内海側には千種川上流域に1件（図1-ti1)、揖保川上流域に4件（図1-ib1～4)、市川上流域に1件（図1-it1)、加古川水系には29件（図1-k1～29）で、合わせて35カ所となる。瀬戸内海側には兵庫県のほかにも、岡山県の吉野川水系の吉井川が流れる英田郡に2件（図1-yo1～2）としている。一方、日本海側は、岸田川流域に2件（図1-ki1～2)、矢田川流域に3件（図1-ya1～3)、竹野川流域に3件（図1-ht1～3)、円山川水系流域に15件（図1-ma1～5、ma7～16)、由良川水系上流域にあたる氷上郡（現在の丹波市）に3件（図1-y8～10）があり、計26カ所となる。このほか京都府には、野田川上流域の与謝郡に1件（図1-na3周辺)、由良川中流域の福知山市に1件（図1-y3～5周辺）の2件をあげている。福井県には越前市に1件（高瀬)、勝山市に1件（沢町)、大野市に1件、坂井市に1件（丸岡町）の計4カ所をあげている。石川県は、白山市に1件（鶴来町)、加賀市に1件（山中町）の2カ所にあるとしている。滋賀県では、高島市に2件（知内、山形)、長浜市に4件（塩津中、中之郷、木之本町、高月町)、米原市に1件（志賀谷）の計7カ所について記載している。

一方、北海道の川下、川裾、川濯神の祭祀の所在について舟山・氏家（1988）は、日本海に面した積丹郡積丹町の4件（神崎、柾泊、余別、来岸）の祭祀状況と余別の川下祭を報告した。

この積丹町への伝承経路を探る目的で、舟山（1992）は、北海道南西部と福井県の若狭地方を調査し、北海道で13カ所、福井県で5カ所の祭祀について報告した。北海道の伝承地は、東から函館市に2件（根崎、古川)、北斗市に1例（旧大野町市渡)、上磯郡木古内町に3件（釜谷、泉沢、札苅)、松前郡福島町に1件（福島)、同郡松前町に2件（上及部、下及部)、檜山郡上ノ国町に1件（向浜)、同郡江差町に1件（伏木戸)、久遠郡せたな町に2件（太櫓、南川）の計13カ所で、大野川中流域の市渡と及部川の中流域にある上及部の2カ所を除いて、津軽海峡から日本海の沿岸地域で祭祀されていた。福井県では、大飯郡高浜町に2例（関屋川の三松、子生川の宮崎)、同郡おおい町に1例（佐分利川の本郷)、小浜市に1例（南川の津島)、美方郡美浜町に1例（早瀬川の早瀬）があり、いずれも河川河口部の水無月神社や六月祓神社で「かわそ」祭として祭祀されていた。

舟山（1993）は、北海道の川下祭と比較するため、兵庫県美方郡浜坂で祭祀状況の調査を進め、さらに調査地を東北地方に広げて所在調査を実施した。これらの調査によって、北海道では新たに12カ所の事例を確認し、乳乞いや子授け明神を含めた川下、川裾、川濯神の祭神を明示した（舟山 1994)。祭祀の内訳は、函館市に5件（石崎、新湊、銭亀、志海苔、山上)、北斗市に6件（旧上磯町：有川、谷好、富川、茂辺地、当別、三石)、上磯郡知内町に1件（元町）であり、いずれも津軽海峡に面した地域に分布していた。

北海道における分布の補足調査として舟山（2003）は、1856年に建立された小樽市柾里の川裾神の祭祀について報告した。また、舟山（2014）は、積丹町余別の川下祭の四半世紀を経た祭祀の比較と兵庫県の祭祀状況を調査し、兵庫県で円山川支流の出石川流域の豊岡市に1

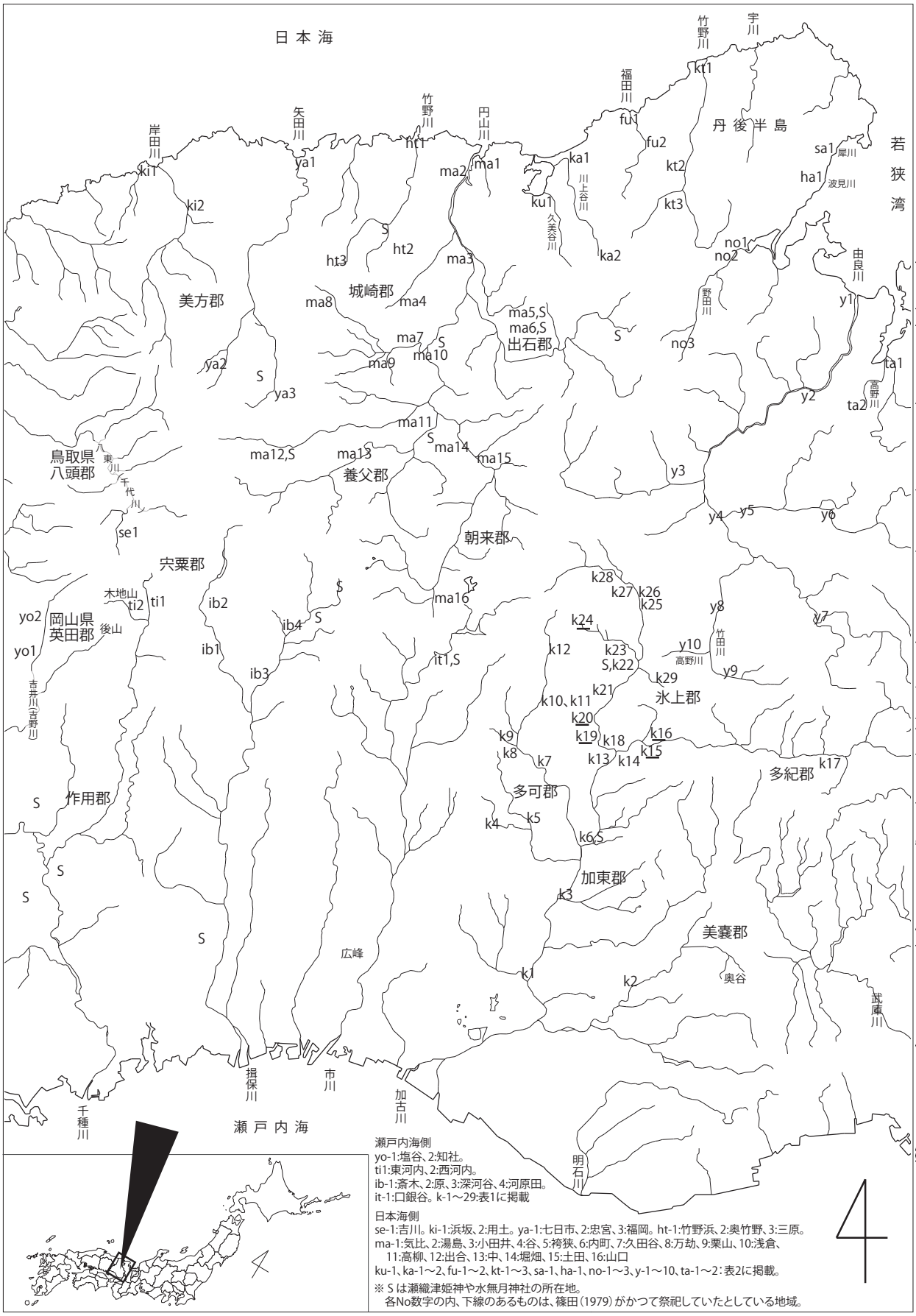


図１　兵庫県と京都府北部を中心とした河川流域にみられる川下、川裾、川濯神の所在地

例（図1–ma6）について補足した。

このように、川下、川裾、川濯は、1950年代から1970年代にかけて、兵庫県中北部から北陸に分布する祭祀の所在や性格が明らかにされてきた。特に1980年代後半以降には、北海道の祭祀状況も明らかになったのである。

河川流域ごとに分布を振り分けると、まず太平洋側（瀬戸内海を含む）の河川は、岡山県の吉野川に2件、兵庫県の千種川に2件、揖保川に4件、市川に1件、加古川に29件、2県の5河川に計38件の祭祀が確認できる。日本海側の河川は、鳥取県の千代川に1件、兵庫県の岸田川に2件、矢田川に3件、竹野川に3件、円山川に16件、京都府の野田川に1件、由良川に4件（内3件は兵庫県内）、福井県の関屋川に1件、子生川に1件、佐分利川に1件、南川に1件、早瀬川に1件、日野川水系に1件、九頭竜川水系に3件、石川県の大聖寺川に1件、手取川に1件で、1府4県の17河川に44件の祭祀が確認できる。また、琵琶湖に流れる河川として、知内川に1件、安曇川に1件、大川に1件、余呉川から高時川にかけて3件、天野川に1件で、6河川に計7件となる。

これをまとめると本州では、太平洋沿岸の河川に38件、日本海沿岸の河川に41件、琵琶湖の河川に7件の計86件がある。北海道では、6件の乳乞いや子授け明神を除いても、津軽海峡から日本海にかけて24件の川下、川裾、川濯神が確認でき、本州との合計は110件となる。

## 3　問題の所在とここでとりあげる課題

前章で確認したように、川下、川裾、川濯神の分布は、兵庫県中北部から北陸地方にかけて日本海側に多くみられるとされてきた。特に、兵庫県においては、いわば分布の点が播磨北部、但馬、丹波に集中することから、兵庫県中北部と括られて、これらの祭神が日本海に多く分布するイメージが強くなったといえる。しかし、川下、川裾、川濯の神社や祭祀状況を太平洋（瀬戸内海）と日本海の分水界によって河川を振り分けてみると違った解釈もできる。

図1に兵庫県と京都府北部を中心とした川下、川裾、川濯の分布を示したように、瀬戸内海側では吉野川、千種川、揖保川、市川、加古川の5河川の流域に38カ所があり、日本海側では千代川、岸田川、矢田川、竹野川、円山川、野田川、由良川の7河川の流域に30カ所となっている。このように川下、川裾、川濯の所在は、河川数では日本海側が多くなるものの、祭祀数では太平洋側が勝るのであり、一概に日本海側に多くみられるとはいえない。

また、分水界で各河川を比較すると、太平洋側の吉野川、千種川、揖保川、市川、加古川の5河川は、いずれも下流域での祭祀はみられない。反対に、日本海に注ぐ河川の岸田川、矢田川、竹野川、円山川は、上流域から下流域までの全域や河口部で祭祀されているのである。ところが、日本海側においても千代川、野田川、由良川の3河川は、下流域での祭祀がみられない。

加古川水系が分水界のある石生（図1–k29）までに29カ所を数えられるのに対して、由良川水系には4カ所しかないのである。しかも、その内の3カ所は上流域の兵庫県丹波市のものであり、実質的には中流域の京都府福知山に1カ所だけとなっている。また同様に、円山川と分水界で接する野田川においても、これまでの報告では1カ所となっている。

このように河川の祭祀が分水界で相違する要因は、京都府北部において過去の所在を含めて祭祀の実態調査がなされていないことにあるのか、そもそもこれら信仰はなかったのかさえも不分明である。したがって、京都府の分布と祭祀状況を調査して、由良川水系と分水界を経た加古川水系の祭祀形態と対比し、京都府北部の祭祀の特徴を示したいと考える。

## 4　加古川水系の祭祀状況

小野市粟生町（図1–k1、表1–1）には、石祠の川裾神社が祭祀されている（図版1–1）。祭祀場所は、万願寺川と加古川が合流する出合にあり、祭神が住吉三神である。祭日は7月末で、祭主には兵庫県小野市垂井町の住吉神社宮司があたっている。小祠は、河川敷にあったが、堤防工事により現在地へ遷した。

三木市久留美（図1–k2、表1–2）には、慈眼寺に川下明王があるとされるが、今回の調査では確認できなかった。久留美には加古川の支流である美嚢川と志染川の出合いがある（図版1–2）。

加東市穂積（図1–k3、表1–3）には、八幡神社の境内社として川下神社が祭祀されている（図版1–3）。祭祀場所は加古川と千鳥川の出合いで、女性の神様を祀るという。祭日は7月30日で、近年は宮当番だけが祭祀している。

神戸新聞社学芸部編（1971）によると、多可郡多可町大和（図1–k4、表1–4）には川添神社が祭祀されている。加古川支流の三原川最上流の川縁に祀られ、「川シロ祭」や「川ッソさん」とも呼称される。

篠田（1979）によれば、多可郡多可町野間（図1–k5、表1–5）に川裾祭がある。祭祀は、加古川支流の野間川と三原川の出合いで行う。祭日は7月16日である。

西脇市戎町（図1–k6、表1–6）には、川下神社が鎮座している（図版1–4）。祭祀場所は、加古川、杉原川、

表1　兵庫県における加古川水系と由良川水系の川下、川裾、川濯神の分布状況

| No. | 図1番号 | 名称 | 祭神 | 所在 | 包括社など |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | k1 | 川下神社 | | 小野市粟生町 | 小野住吉神社 |
| 2 | k2 | 川下 | 川下明王 | 三木市久留美 | 慈眼寺 |
| 3 | k3 | 川下社 | | 加東市穂積 | 八幡神社 |
| 4 | k4 | 川添神社 | カワシロ、カワッソ | 多可郡多可町八千代区大和 | |
| 5 | k5 | 川裾祭 | | 多可郡多可町八千代区野間 | 小祠 |
| 6 | k6 | 川下神社 | 天照皇大神ほか3柱 | 西脇市戎町 | 皇太神宮社 |
| 7 | k7 | 川裾祭 | 住吉三神、祓戸神 | 多可郡多可町中区間子 | 加都良神社 |
| 9 | k8 | 川下 | | 多可郡多可町加美区西脇 | 小祠 |
| 8 | k9 | 川スソ祭 | | 多可郡多可町加美区寺内 | 小祠 |
| 10 | k10 | 川裾祭 | | 多可郡多可町加美区箸荷(中島新村) | 小祠 |
| 11 | k11 | 川裾神社 | | 多可郡多可町加美区箸荷 | 川裾神社 |
| 12 | k12 | 川裾神社 | 川ッソはん、女神 | 多可郡多可町加美区轟 | 河上神社 |
| 13 | k13 | 川スソ祭 | | 西脇市黒田庄区船町 | |
| 14 | k14 | 川スソ祭 | 川スソさん | 西脇市黒田庄区小苗 | 古奈為神社 |
| 15 | k15 | 川裾祭 | | 丹波市山南町谷川 | かつて祭祀していた地域 |
| 16 | k16 | 川裾祭 | | 丹波市山南町岡本 | かつて祭祀していた地域 |
| 17 | k17 | 水無月祭 | | 篠山市日置 | 住吉神社 |
| 18 | k18 | 川スソ祭 | | 丹波市山南町井原 | |
| 19 | k19 | 川スソ祭 | | 丹波市山南町梶 | 今は青年団の行事のみ |
| 20 | k20 | 川裾祭 | | 丹波市山南町応地 | かつて祭祀していた地域 |
| 21 | k21 | 川スソ祭 | | 丹波市氷上町朝阪 | 1909年頃に祭祀 |
| 22 | k22 | 川スソ祭 | 川スソさん、川裾大明神 | 丹波市氷上町本郷 | |
| 23 | k23 | 川スソ祭 | 罔象女命 | 丹波市氷上町成松 | |
| 24 | k24 | 川裾大明神 | | 丹波市氷上町三方(葛野) | 1994(平成6)年10月建立 |
| 25 | k25 | 川スソ祭 | | 丹波市氷上町絹山 | |
| 26 | k26 | 川裾祭 | | 丹波市氷上町幸世 | |
| 27 | k27 | 川スソ祭 | | 丹波市氷上町御油 | |
| 28 | k28 | 川洒(川下) | 水無月大明神 | 丹波市青垣町佐治 | 水神社 |
| 29 | k29 | 水分れまつり | 川下 | 丹波市氷上町石生 | |
| 30 | y10 | 川スソ祭 | | 丹波市春日町黒井 | |
| 31 | y9 | 川スソ祭 | | 丹波市春日町国領 | 地蔵堂 |
| 32 | y8 | 川スソ祭 | | 丹波市市島町市島 | |

和田谷川の出合いである。祭神は、中央に天照皇大神、右が蛭子命、左に四柱大神として祓戸の神を祀る。祭日の7月30日には、川裾祭が行われる。地域では、「かわっさはん」と呼称するという。

西岡（1977）は、多可郡多可町中区間子の加都良神社（図1–k7、表1–7）で川裾祭をあげている。祭日は、7月28日で、神社境内前の思出川の傍に祭壇を設けるという。

西岡（1977）は、多可町加美区西脇（図1–k8、表1–8）で杉原川の合流点で川下を祀るとしている。

西岡（1977）は、多可町加美区寺内（図1–k9、表1–9）で「川スソ祭」の小祠の所在をあげている。祭日は7月28日で、川淵の祠で「川スソ祭」が行われる。寺内地区は、多田川と杉原川の出合いにある。

神戸新聞社学芸部編（1971）によると、多可町加美区箸荷（図1–k10、表1–10）には、杉原川の堤防に沿って川裾神社があるとしている（図版1–5）。祭日は7月29日である。篠田（1979）は、轟と寺内のほぼ中間点を中島（図1–k11、表1–11）としている。しかし、この中間点は箸荷にあたるが、この周辺には中島という地名や川裾神社もないことから、重複している可能性がある。

篠田（1979）は、多可町加美区轟（図1–k12、表1–12）では、轟谷川と杉原川の合流点を祀っていると指摘している。祭祀は川端の楓の木の下の岩（図版1–6）で参拝する。7月30日の祭には、河上神社が係わる。

神戸新聞社学芸部編（1971）によれば、佐治川（加古川）と篠山川が合流する西脇市黒田庄区船町（図1–k13、表1–13）と小苗（図1–k14、表1–14）で、川の出合いを祀る川スソ祭を指摘している。この7月30日の川スソ祭では、地区の古奈為神社に斎主を依頼したという。

篠田（1979）は、篠山川が東流する丹波市山南町で、南岸の谷川（図1–k15、表1–15）と北岸の岡本（図1–k16、表1–16）で、かつて「川裾祭」を祀っていたとしている。

神戸新聞社学芸部編（1971）によると、篠山市日置（図1–k17、表1–17）には、川裾祭があったという。現在、7月末に篠山川に架かる泉橋で水無月祭が行われるが（図版1–7）、川裾祭という呼称はみられない。

神戸新聞社学芸部編（1971）によると、丹波市山南町井原（図1-k18、表1-18）では、灌漑用水路の土手脇に祭壇を設けて「川スソ祭」を行うとしている。

神戸新聞社学芸部編（1971）によると、丹波市山南町梶（図1-k19、表1-19）では、かつて川の端で提灯を灯して「川スソ祭」を行っていたとしている。

篠田（1979）によると、丹波市山南町応地（図1-k20、表1-20）には、かつて川裾祭があったとしている。

神戸新聞社学芸部編（1971）によると、丹波市氷上町朝阪（図1-k21、表1-21）には、1909年頃に創始された「川スソ祭」があった。祭祀場所は、佐治川（加古川）本流と井の欠井溝の合流点であるという

神戸新聞社学芸部編（1971）によると、丹波市氷上町本郷（図1-k22、表1-22）には、「川スソ祭」がみられる。祭日は6月28日と29日であったが、現在8月3日となっている。祭祀場所は、葛野川と佐治川の出合いであったが、堤防の上に祭壇を設けて祭祀された（図版1-8）。祭には斎主として新郷の伊尼神社が係わる。伊尼神社境内には祓戸神社が合祀されている（図版2-1）。

篠田（1979）によると、丹波市氷上町成松（図1-k23、表1-23）には、「川スソ祭」がみられる。祭神は罔象女命で7月末に祭祀が行われるという。祭祀場所は、葛野川にかかる橋上で（図版2-2）、斎主として大護神社が係わる。水かさが少ない時には川原でも行ったという。

篠田（1979）によると、丹波市氷上町の葛野で行われていたとしている。現在、葛野川上流の三方（図1-k24、表1-24）に、川裾大明神の石碑が祀られている（図版2-3）。この石碑は1994年10月建立されたものである。

神戸新聞社学芸部編（1971）によると、丹波市氷上町絹山（図1-k25、表1-25）には、香良との境となる灌漑用水路で「川スソ祭」を行ったという。現在、佐治川（加古川）の堤防石碑が祀られている（図版2-4）。

篠田（1979）は、丹波市氷上町幸世（図1-k26、表1-26）に、川裾祭があるとしている。7月末から8月上旬に幸世橋上で祭祀が行われるとしているが、この祭祀場は御油と同じであり、両地域の祭祀が重複している可能性もある。

神戸新聞社学芸部編（1971）は、丹波市氷上町御油（図1-k27、表1-27）で、「川スソ祭」が行われていたとしている。幸世橋は佐治川（加古川）右岸の御油にある（図版2-5）。

西岡（1977）は、丹波市青垣町佐治（図1-k28、表1-28）に川洒（川下）が祀られているとしている。祭祀場所は、神楽橋付近（図版2-6）の川原である。祭日は7月29日で、水無月祓が行われる。

篠田（1979）は、丹波市氷上町石生（図1-k29、表1-29）に川下が祀られていたとしている。現在、石生に川下を祀る神社はみられないが、7月末に水分れまつりが行われる水分公園奥にある岩部神社の境内に厄除社がある（図版2-7）。石生は、瀬戸内海に注ぐ加古川と、日本海に注ぐ由良川の分水界にあたる。

表2　由良川水系など京都府北部における川下、川裾、川濯神の分布状況

| No. | 図1番号 | 名称 | 祭神 | 所在 | 包括社など |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | y1 | 水無月祭 | 水無月さん | 宮津市由良 | 奈具神社 |
| 2 | y2 | 水無月神社 | | 舞鶴市桑飼下 | 伊智布西神社 |
| 3 | y3 | 大河森神社 | 瀬織津姫命 | 福知山市字野花宮ノ前 | |
| 4 | y4 | 粟嶋神社 | 女性の神様 | 福知山市内記から京町へ | 京町稲荷神社 |
| 5 | y5 | 池神 | 水神社 | 福知山市戸田 | 浦島神社 |
| 6 | y6 | 水無月 | 水無月祭 | 綾部市並松町 | 熊野新宮神社 |
| 7 | y7 | 水無月社 | 瀬織津姫命 | 福知山市三和町菟原下 | 梅田神社 |
| 8 | ku1 | 川裾神社 | 川裾大神 | 京丹後市久美浜町小谷 | 神谷神社 |
| 9 | ka1 | 水無月神社 | 水無月神社 | 京丹後市久美浜町甲山 | |
| 10 | ka2 | 竹谷神社 | 瀬織津姫命 | 京丹後市久美浜町新谷向畑 | |
| 11 | fu1 | 水無月神社 | 瀬織津姫命 | 京丹後市網野町浅茂川日吉 | 日吉神社 |
| 12 | fu2 | 名越神社 | 瀬織津姫命 | 京丹後市網野町公庄 | 郡立神社 |
| 13 | kt1 | 水無月神社 | | 京丹後市丹後町間人 | 斎宮神社 |
| 14 | kt2 | 水無月祭（旧川裾） | 名越祓の神 | 京丹後市峰山町丹波 | 多久神社 |
| 15 | kt3 | 旧川裾 | 疫病除の神 | 京丹後市峰山町菅 | 久津方神社(履掛大明神) |
| 16 | sa1 | 水無月神社 | 瀬織津姫命 | 宮津市岩ヶ鼻宮山 | 日吉神社 |
| 17 | ha1 | 水無月神社 | 瀬織津姫命 | 宮津市里波見宮ノ越 | 高峯神社 |
| 18 | no1 | 水無月神社 | 名越祓 | 与謝野郡与謝野町岩滝 | 板列稲荷神社 |
| 19 | no2 | 水無月神社 | 瀬織津姫命 | 与謝野郡与謝野町弓木 | 城山公園内 |
| 20 | no3 | 川裾神社 | 川裾 | 与謝野郡与謝野町加悦 | 天満神社調査では不明 |
| 21 | ta1 | 水無月神社 | 海の神様、女性の神様 | 舞鶴市東吉原 | 吉原町の氏神 |
| 22 | ta2 | 水無月神社 | 東吉原の代参のため | 舞鶴市女布日原 | 日原神社 |

## 5　由良川水系の祭祀状況

由良川水系の黒井川と竹田川の上流域は、兵庫県内を流れることから、まず兵庫県から取り上げる。京都府の分布については、河口部からたどることとする。

神戸新聞社学芸部編（1971）では、黒井川が流れる丹波市春日町黒井（図1–y10、表1–30）に、「川スソ祭」があったとしている。現在は、7月下旬に水無月祭が行われ、灯籠流しが行われる。祭祀は、黒井駅近くの黒井橋（図版2–8）周辺である。

神戸新聞社学芸部編（1971）によると、丹波市春日町国領（図1–y9、表1–31）に「川スソ祭」があったという。現在は、水無月祓として7月下旬に実施している。祭祀場所は、竹田川にかかる巡礼橋（図版3–1）周辺である。

神戸新聞社学芸部編（1971）は、丹波市市島町（図1–y8、表1–32）に「川スソ祭」があるとしている。竹田川にかかる市島大橋（図版3–2）で祭祀が行われる。

一方、京都府北部の祭祀状況をみると、宮津市の由良川河口西岸（図1–y1、表2–1）には、奈具神社（図版3–3）がある。この神社では、旧暦6月に水無月晦日に夜祭りがあり、太鼓踊りが行われていたという。

由良川南岸に位置する舞鶴市桑飼下（図1–y2、表2–2）には、伊智布西神社（図版3–4）があり、境内に水無月神社が合祀されている。

由良川支流の牧川北岸に位置する福知山市字野花宮ノ前（図1–y3、表2–3）には、大河森神社（図版3–5）がある。祭神は瀬織津姫命で、女性の神様として信仰されている。祭日は7月下旬である。

京都府福知山市の京町（図1–y4、表2–4）では、稲荷神社に粟嶋神社（図版3–6）が合祀されている。この神社は、朝暉神社に合祀されていた水神社を、2001年に内記から現在地へ遷座した。水神社の祭日は6月29日であったという。安産の神様として、地域の女性たちが中心となって祭祀を行っている。

由良川南岸の福知山市戸田（図1–y5、表2–5）には、浦島神社（図版3–7）があり、境内外に池神という「お沼」が祀られている。

由良川西岸の綾部市並松町（図1–y6、表2–6）には、熊野新宮神社があり、境内に厄神社（図版3–8）が合祀されている。ここでは、7月下旬に水無月祭が行われる。

福知山市三和町菟原下には、梅田神社（図版4–1）がある（図1–y7、表2–7）。この社地は、由良川支流の北岸河川敷にある。

## 6　丹後半島における祭祀

久美谷川河口に近い左岸にある京丹後市久美浜町小谷（図1–ku1、表2–8）の神谷神社境内には、川裾神社（図版4–2）が合祀されている。祠の後背には久美谷川が流れている。

川上谷川河口近くの京丹後市久美浜町甲山（図1–ka1、表2–9）には、水無月神社が祀られている（図版4–3）。この神社の建立の際には、甲山地区だけではなく、上流域の地区も普請にあたっている。

川上谷川上流域の京丹後市久美浜町新谷向畑（図1–ka2、表2–10）に竹谷神社（図版4–4）が鎮座している。この祭神は、瀬織津姫命である。

福田川の河口西岸の京丹後市網野町浅茂川（図1–fu1、表2–11）に鎮座する日吉神社境内には、水無月神社（図版4–5）が合祀されている。福田川中流域の東岸にあたる京丹後市網野町公庄（図1–fu2、表2–12）の郡立神社（図版4–6）には、名越神社が合祀されている。

竹野川河口左岸の京丹後市丹後町間人（図1–kt1、表2–13）には、水無月神社（図版4–7・8）が祀られている。この祭神は、安産の神でもあるという。東（2015）は、この祭は川すそ祭と呼称し、斎宮神社が斎主となって7月28日に祭祀が行われるとしている。かつて、旧暦6月28日に川尻で祭祀を行った。竹野川中流域西岸の京丹後市峰山町丹波（図1–kt2、表2–14）には多久神社（図版5–1）がある。祭日は7月30日で水無月祭が行われる。江戸時代の祭の様子を記した「風俗問状答」では、この祭は川裾さんといい、旧暦6月晦日に竹野川河畔で祭祀していた。竹野川上流域の京丹後市峰山町菅（図1–kt3、表2–15）には、旧称履掛大明神の久津方神社（図版5–2）が鎮座している。西岡（1977）によれば、履掛大明神は川裾で、疫病除の神という。

宮津市岩ヶ鼻宮山（図1–sa1、表2–16）には、水無月神社が祀られている。祭祀は、犀川河口左岸（図版5–3）で行うという。

波見川左岸の宮津市里波見宮ノ越（図1–ha1、表2–17）に鎮座する高峯神社境内には、水無月神社（図版5–4）が合祀されている。

野田川河口北側の与謝野郡与謝野町岩滝（図1–no1、表2–18）には、板列稲荷神社があり、水無月神社合祀されている。同じく同町弓木（図1– no2、表2–19）の城山公園内には、水無月神社（図版5–5）が祀られている。西岡（1977）は、野田川上流域の与謝野郡与謝野町加悦（図1–no3、表2–20）に川裾神社が祭祀されているとしている。加悦では、天満神社（図版5–6）の境内社を調査したが、今回の調査では未確認である。

宮津湾の入江に面してある舞鶴市東吉原（図1–ta1、

表2–21）には、水無月神社（図版5–7）が祀られている。祭日は7月中旬に、夜祭が行われる。

高野川上流の舞鶴市女布日原（図1–ta2、表2–22）に鎮座している日原神社（図版5–8）には、水無月神社が合祀されている。この祭神は、東吉原の水無月神社の分霊を受けたもので、代参するための祭神であるという。

## 7　川下、川裾、川濯の分布と祭祀の比較

これまで、加古川と由良川を中心に京都府北部における川裾、川下、川濯の祭祀状況を俯瞰した。この分布調査の結果をもとにして、分水界を経た加古川水系と由良川水系の祭祀状況をここで比較したいと考える。

加古川水系の祭祀の特徴は、川裾、川下、川濯などの名称で、祠や石碑に祀られている。しかし、応地（図1–k20）などすでに途絶えて久しいものや、日置（図1–k17）や佐治（図1–k28）など水無月祓として祭祀されているものもある。祭日は、旧暦6月晦日を7月下旬にしたものが多い。祭祀場所は、内水面航路の船着場、複数の河川の出合い、灌漑用水路、水分かれで祀られる。

一方、由良川水系の祭祀の特徴は、野花（図1–y3）や京町（図1–y4）など、川裾、川下、川濯の神徳とかかわりの深い子授けと安産祈願の神様として女姓が信仰する神社がみられた。祭日は7月下旬が多く、兵庫県内の黒井（図1–y10）から河口部の由良（図1–y1）まで、水無月祭を行う神社についてはみられた。しかし、川裾、川下、川濯といった呼称はみられなかった。

丹後半島では、久美谷川や竹野川の河口に川裾神社（図1–ku1）、あるいは川すそ祭（図1–kt1）がみられた。また、かつて川裾という祭祀をしていた神社が、竹野川流域の丹波（図1–kt2）と菅（図1–kt3）に確認することができた。これらは、川裾、川下、川濯が、河口部や河川流域全般に祭祀されるという日本海側の祭祀の特徴を強く示しているといえる。

## 8　おわりに

調査の中間年度にあたり、江戸時代からの日本海の航海ルートとしてかかわり深い京都府の丹波・丹後地方において、川下、川裾、川濯とその祭祀について所在調査を行った。大きな目的は、2013年度に調査した兵庫県の分布調査をもとに、石生の水分かれを経て加古川と対峙する由良川の祭祀形態、神体、神徳について明らかにするために調査を実施した。

しかし、兵庫県西部に接した鳥取県と岡山県の祭祀の状況は不明な点が多い。また、兵庫県においても瀬戸内海側の河川河口域における水無月神社の祭祀との関連についても明らかになっていない。今後も継続して分布調査を進めるとともに、北海道への伝承について明らかにしたいと考える。

### 謝辞

この調査を進めるにあたり、次の方々から神社の祭祀などの聞き取りや資料の提供などで数多くのご教示をいただきました。記して厚く感謝申し上げます。

日蓮宗法運山妙谷寺、庵谷行遠氏、小野住吉神社、中山松比古氏。

### 参考文献

東史郎 2015. 間人の川すそ祭の謂.

池田和生 1959. 川裾雑記. 西郊民俗 9: 16–19. 西郊民俗談話会.

民俗学研究所編 1955. 綜合日本民俗語彙.

宮尾しげを編 1968. 日本祭礼行事辞典.

西岡陽子 1977. カワスソ祭考. 地域と文化：本位田重美先生定年論文集. pp. 321–346.

篠田統 1979. 川裾祭. 風俗古今東西 民衆生活ノート. pp. 193–202. 社会思想社.

舟山直治 1988. カワシモサマ信仰(1). 北海道開拓記念館調査報告 27: 21–30.

舟山直治 1992. カワシモサマ信仰(2). 北海道開拓記念館調査報告 31: 101–118.

舟山直治 1993. カワシモ信仰–北海道への伝播. 北海道開拓記念館研究年報 21: 35–52.

舟山直治 1994. 北海道西南部における明神講. 北海道開拓記念館研究年報 22: 65–88.

舟山直治 2003. 小樽市における川裾神社の石碑について. 北海道開拓記念館研究年報 31: 61–70.

舟山直治 2014. 積丹町余別における川下祭の伝承と兵庫県の祭祀状況. 北海道地域文化研究 6: 127–146.

舟山直治 2015. 北海道における大祓にかかわる祭神の特徴. 開拓記念館研究年報 43: 7–20.

図版1

1　加古川に向いて建られた川裾神社(k1:小野市粟生町)

2　美嚢川と志染川の合流部(k2:三木市久留美慈眼寺側から)

3　八幡神社の境内社川下神社(k3:加東市穂積)

4　川下神社(k6:西脇市戎町　別名:かわっさはん)

5　川裾神社境内(k10: 多可郡多可町加美区箸荷)

6　河上神社傍の河畔にある祭祀場(k12: 多可郡多可町加美区轟)

7　篠山川の泉橋(k17: 篠山市日置)

8　佐治川にかかる本郷橋(k22: 丹波市氷上町本郷)

図版2

1　伊尼神社境内社祓戸神社(S: 丹波市氷上町新郷)

2　葛野川にかかる成松橋(k23: 丹波市氷上町成松)

3　川裾大明神の石碑(k24: 丹波市氷上町三方)

4　佐治川河畔の石碑(k25: 丹波市氷上町絹山)

5　祭祀場は幸世橋付近の河畔(k27:丹波市氷上町御油)

6　佐治川の神楽橋付近の川原(k28:丹波市青垣町佐治)

7　岩部神社境内社厄除社(k29:丹波市氷上町石生)

8　黒井川にかかる黒井橋(y10:丹波市春日町黒井)

図版3

1　竹田川にかかる巡礼橋(y9:丹波市春日町国領)

2　川下祭が行われる市島大橋(y8:丹波市市島町)

3　奈具神社(y1: 宮津市字由良)

4　伊智布西神社合祀水無月神社(y2:舞鶴市桑飼下)

5　大河森神社祭神瀬織津姫命(y3:福知山市野花)

6　稲荷神社合祀粟嶋神社(y4:福知山市京町)

7　浦島神社合祀水神社(y5:福知山市戸田)

8　熊野新宮神社境内社の厄神社(y6:綾部市並松町)

図版4

1　梅田神社(y7:福知山市三和町菟原)

2　神谷神社境内社川裾神社(ku1: 京丹後市久美浜町)

3　水無月神社(ka1:京丹後市久美浜町甲山)

4　竹谷神社祭神瀬織津姫(ka2:京丹後市久美浜町新谷向畑)

5　日吉神社境内社水無月神社 (fu1: 京丹後市網野町浅茂川)

6　郡立神社合祀社名越神社 (fu2: 京丹後市網野町公庄)

7　水無月神社(kt1: 京丹後市丹後町間人)

8　水無月神社が祀られている海岸(kt1: 京丹後市丹後町間人)

図版5

1　川裾さんが行われていた多久神社(ht2: 京丹後市峰山町丹波)

2　川裾が祀られていた久津方神社(ht3: 京丹後市峰山町菅)

3　日吉神社境内社水無月神社祭場の犀川河口 (s1: 宮津市岩ヶ鼻)

4　高峯神社境内社合祀水無月神社 (h1: 宮津市里波見宮ノ越)

5　水無月神社(no2: 与謝野郡与謝野町弓木)

6　天満神社(no3: 与謝郡与謝野町加悦)

7　水無月神社(ta1:舞鶴市東吉原)

8　日原神社(ta2: 舞鶴市女布)

# Folklore of Belief in Coastal Area of the Kako River and Yura River Basin of a Deity as “Kawa-shimo”, “Kawa-suso” and “Kawa-so”

Naoji FUNAYAMA and Kouichi MURAKAMI

This article reports on investigations carried out in 2015 under a JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research, and is entitled “Folklore Research of Various Topics Regarding Transmission of “Oharae”(purification) Ritual Traditions to Hokkaido Through the western shipping route” (Research Project Number 25370961). Based on five years of investigations, this study seeks to clarify the transmission and changes of traditions formed among “Wajin” people in Hokkaido, taking into account the interregional exchange conveyed through routes such as the western shipping route of the Edo period (1603-1868). Specifically, our goal is to systematically detail and compare ritual forms found through Hokkaido, targeting purification rituals as examples of folk customs which have been propagated and transmitted by the movement of people, goods, and information from Honshu and further south to the Japan Sea Coast of Hokkaido from the 17th century onward.

In this year’s survey, a distribution survey was carried out with regard to rituals concerning the “Kawa-shimo”, “Kawa-suso” and “Kawa-so” god of purification ritual in the river basins of the Tamba and Tango regions of Kyoto prefecture. The aim of this survey was to compare the rituals and folklore in the river basins of rivers that flow into the Seto Inland Sea-side and Sea of Japan-side, based on the distribution surveys carried out in Hyogo prefecture in 2013.

Naoji FUNAYAMA : Director, Curatorial Division, Hokkaido Museum
Kouichi MURAKAMI : Museum Studies Group, Research Division, Hokkaido Museum